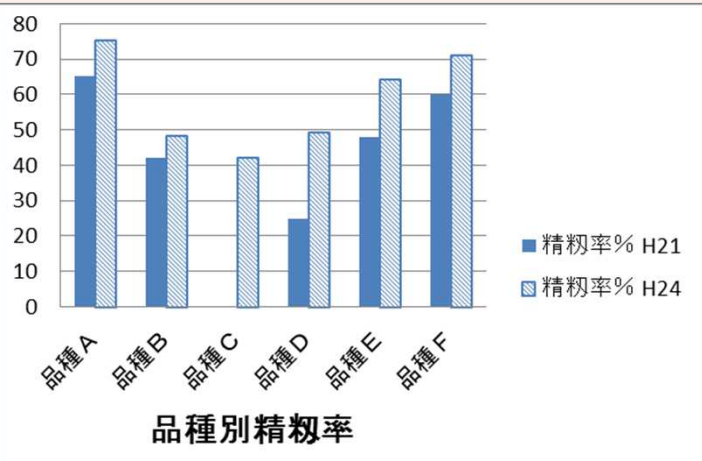


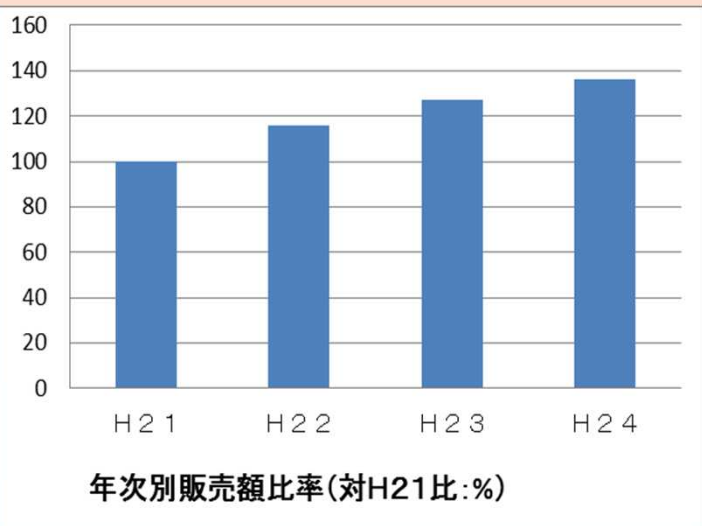
- A組合は、県内の水稻種子生産を一手に引き受けているが、倒伏や穂枯れ性病害などによる品質低下の克服が必要。
- 精糲率向上のための適正施肥化と、防除改善による病害軽減、外観向上等の取り組みを行った。
- その結果、**種子反収と種子合格率が向上し、販売額も年々向上した。**

具体的な成果

1. **施肥量の削減**が組合員に理解されてほぼ実施された。
2. 倒伏軽減、籾数制限による精糲率向上、内穎褐変病軽減による籾外観向上の効果があった。それにより**精糲率、精糲反収、種子合格率が向上した。**



3. 種子合格率向上により**種子販売額が年々増加した。**



普及員の活動

- 【平成22年～23年】
- 種子精糲率・外観の向上のため、組合役員会で、早生種の**施肥削減を提案し設計を改善した。**
 - 翌年は中生種でも施肥削減を勧め、設計が改善された。
 - 採種取り組み間もない品種につき、**施肥基準策定の実証圃を設置した。**

- 【平成22年～24年】
- 現地指導会・研修会の実施、技術情報発行を行った。
 - 施肥記録をチェックし、施肥削減**実施状況の確認**と、削減による生産成績向上**効果の確認**を行なった。
 - 発生が多くなっている種子伝染性病害につき、病害虫担当革新支援専門員・農業試験場などと連携し、発生状況調査と対策の検討を行なった。
 - **種子消毒～本田防除の体系の改善・充実に努めた。**

普及員だからできたこと

1. 現場の状況を革新支援専門員、農業試験場他に伝達・協議し、**協調して防除体系・栽培体系を改善できた。**